

1 PLAN(目的・概要)

その他経常業務

| | | | |
|-------|--|-------|--|
| 政策名 | 物流・産業 | 責任者 | 港営部 港湾管理事務所長 |
| 施策名 | 国際・国内海上輸送機能の強化 | 連絡先 | 052-398-0503 |
| 事務事業名 | 在来施設(上屋・荷さばき地)の管理・運営 | 連携課 | 港営課、工事課、港湾工事事務所、施設事務所 |
| 目的 | 対象(誰・何を) | 事業期間 | 昭和36年度～継続 |
| | 意図(どういう状態にしたいか) | | |
| 概要 | 施設の使用状況を適切に管理し、無許可使用や施設への損傷の有無に注意を払い、損傷等が生じた場合には緊急度に応じて補修等の実施に努めます。 | 根拠法令等 | 名古屋港港湾施設条例 |
| 活動内容 | ①使用許可申請書の受理、②利用者調整、③現場確認を実施し、施設の使用状況の確認及び損傷箇所の発見、④港湾管理情報システムへの使用実績の入力及び⑤利用者からの要望又は施設損傷等の不具合等が生じた場合は緊急度に応じた補修を行います。 | 実施義務 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| | | 関連シート | |

2 DO(実施)

| コスト | 単位 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 平均 | 備考(費用の増減理由等) |
|-----|----|---------|---------|---------|---------|--|
| 事業費 | 千円 | 144,136 | 279,824 | 179,509 | 201,156 | 上屋の耐震改修工事が多かったため上屋の補修費が平成27年度より少なくなりました。 |
| 人件費 | 千円 | 45,807 | 45,807 | 46,587 | 46,067 | |
| 合計 | 千円 | 189,943 | 325,631 | 226,096 | 247,223 | |

3 CHECK(検証)

| 指標名 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 最終目標 | 30 | 指標の説明・目標値の考え方 | 外部要因 | |
|------------------------------|---|---|--|-------|-------|-------------------------|------|--|
| 荷さばき地使用率(%) (単年度管理型) | 目標 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 荷さばき地の使用率 使用料÷有効面積金額 | 景気動向 | |
| | 実績 | 48.7 | 45.0 | 41.9 | | | | |
| 事業進捗状況(28年度) | | 目標値を上回る <input type="checkbox"/> 目標値をちょうど下回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標値を下回る <input type="checkbox"/> | | | | | | |
| 上屋使用率(%) (単年度管理型) | 目標 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 上屋の使用率 使用料÷有効面積金額 | 景気動向 | |
| | 実績 | 83.3 | 68.4 | 70.1 | | | | |
| 事業進捗状況(28年度) | | 目標値を上回る <input type="checkbox"/> 目標値をちょうど下回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標値を下回る <input type="checkbox"/> | | | | | | |
| 目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた) | 施設の提供率は目標の100%を達成していますが、荷さばき地の使用率は50%を下回っております。 | | | | | | | |
| 必要性・有効性・効率性の検証 | 評価 | 評価に関する説明 | | | | | | |
| 必要性 | 本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か? | ○ | 施設の公共性の観点から本組合の関与が必要不可欠です。 | | | | | |
| | 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか? | ○ | 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境に適合しております。 | | | | | |
| 有効性 | 事務事業は、施策達成に貢献するか? | ○ | 上屋及び荷さばき地を適切に管理するという事務事業の目的は、国際・国内海上輸送機能の強化という施策達成に貢献するものです。 | | | | | |
| | 期待どおりの成果が得られているか? | △ | 荷さばき地使用率及び上屋使用率については、景気の影響を受けやすく、目標値には達しませんでした。 | | | | | |
| 効率性 | 最小のコストとなっているか? | ○ | 効率性の観点からは最少のコストとなっております。 | | | | | |

4 ACTION(取組)

| 課題 | 29年度以降の取組 |
|--|--|
| 上屋等建築物の地震対策や屋根・外壁等の改修工事は順次進めているが、まだ終わっていない施設については、利用不可能な箇所の発生の恐れだけでなく、事故の発生の恐れもある状況です。 | 施設の効率的な提供のためにも、緊急的な対応を必要とする修繕と計画的な大規模改修等を的確に実施していく必要があります。 |